

地質ニュース

昭和43年7月

第167号

1968

解説	東濃北部含ウラン地域の地質層序…………ウラングループ…1
	きんのはなし ②…………高島 清…7
	ポーフィリー銅-鉛床 ④…………石原舜三…13
講座	水井戸の話 ④ 地下水の保全…………村下敏夫…24
	宇宙と海洋の花粉学…………徳永重元…26
	地球化学の話 ⑧ 同位体地質学〔4〕…………倉沢 一…32
海外事情	サウジアラビアの地下資源…………小村幸二郎…41
	バンコク エカフエ事務局通信 ④…………沢田秀穂…56
	学会掲示板…………6
	地学と切手…………堀内恵彦…40

編集 地質調査所

表紙の写真

ノジュール (能登路 10)

能登半島の各地に第三紀層の泥岩が発達しているが、しばしばそれらの中にノジュールが含まれている。ノジュールは団塊とも呼び、堆積岩中に母岩とは成分のちがった物質が、丸っこい塊をなして含まれているものをいう。写真は温泉と珪藻土で有名な和倉の対岸で、能登島須賀南西方の七尾湾に面した海崖にみられるものである。のっぺりとした壁をつくるのが珪藻泥岩で、そのほぼ一定層準にノジュールが並んで入っている。湾めぐりの遊覧船ではこれを大砲岩と少々物騒な名前をつけているが、どうしてなかなか愛きょうのある形をしている。なお、能登半島北部ではこの種のノジュールを長太郎(役に立たぬ人の意)石と俗称し、いずれにせよ難くない名前をもらっている。しかし、地質学的にみると、ノジュールはその成因についてなお未解決の重要な問題を秘めており、見掛けによらず意味深い石なのである。(盛谷智之)

発行 株式会社 実業公報社